

今月の「授業紹介」

生徒が「自分たちで考えて、
自分たちで理解できる」材料に！

横浜市立の中学校 鈴木校長 と 池田 教諭 にお話しをうかがいました。

基礎英語 LEAD をどんな風にお使いですか？

主に、單元ごとのまとめとして使っています。あとは試験としても使います。

まず、対象の文法項目会話例の中から、面白いものを見つけて、会話を少し短くしたり、空欄を作ったりして、教材用に加工しています。
ひとつの單元に対して、だいたい4つ～5つの会話例を使っていると思います。

4つ～5つの会話例を授業で使用するのは、大変そうな気がしますが…。

使いたいと思う会話例を探すのは、
少し時間がかかりますね（笑）

でも、複数の会話例を用意することで、
生徒は多様な場面や文脈に触れることができます。

それによって、今まで学習してきた内容を思い出しながら、
自分たちで類推し、考えて、理解するというステップがふめるようになるので、やはり一定の数は用意したいです。



基礎英語 LEAD には、「検索結果絞り込み」ができる機能もありますが…。

「年度」や「番組名」で絞り込めるのは知っていたのですが、実はしていません。

というのも、会話をひとつひとつ見ていくことが、自分自身の勉強にもなるからです。それに、絞り込んだせいで面白いスキットを見逃すは惜しいですし。

スキット内の未履修単語に対しては、どのように対応なさっていますか？

そういった表現は「生きている英語」として捉えているので、あまり気になりません。

教材を作るときに、単語の意味をイメージできるような工夫をしたり、いくつかの語句に日本語訳を追加したりすることで対応しています。

生徒の反応について

よく考えるようにもなったし、楽しんでいると思います。

基礎英語 LEAD 内の表現を使って自分たちで会話を作るなど、インプットからアウトプットにつながっていると思います。

校長先生にもうかがいました！

池田先生の手腕もあると思いますが、とにかく授業中は何かしらずっと子どもに考えさせるように工夫をしています。「この場面ではどういう意味？」など、場面や機能を意識させることで、思考力、判断力を伸ばすことにつながっているように感じます。それと特に校長として嬉しいのは、自然な